

2 8 年度陽南小学校「うつのみや学校マネジメントシステム」学校評価書

※網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童を育成する。

【具体目標】

【目指す児童像】

- (1) 自ら学び、ねばり強く努力する児童-----楽しく学ぶ子【かしこく】（自主・思考・判断・創造）
- (2) 思いやりをもち、助け合う児童-----仲よく助け合う子【なかよく】（思いやり・責任・協調・協力）
- (3) 健康と安全に留意し、元気に活動する児童--元気に活動する子【たくましく】（明朗・気力・体力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育の目標は、「人間尊重の教育」を基盤として、21世紀の担い手として主体的に生きることができ、心身ともに健康でたくましい人間の育成を目指している。そのためには、自然や人を愛し自他を慈しむことのできる豊かな感性や強い体力・精神力を培ったり、自ら考え進んで学んでいこうとする意欲に満ちた態度を身に付けさせたりする等、知・徳・体の調和のとれた人間の育成を図ることが大切である。

さらには、一人の人間として、自分の生き方についての考えをもち、よりよい生き方を求め、自分らしく生きていくとともに、社会の一員としての自覚と責任をもち、広い視野に立って、積極的に他と協調し連携を図りながら、よりよい社会を築いていくために努力する能力や態度を身に付けさせていくことが学校教育に求められる。

これらのことを踏まえ、創立68年の陽南小学校のよき伝統と校風を引き継ぎ、すべての教職員の力を結集するとともに学校内外の物的・人的資源を最大限に生かし、児童一人一人の確かな成長を図る学校づくりを進める。その理念と目指す学校像を次のように設定し、教育活動の充実につなげる。

【理念】

- ・安心と楽しさのある学校づくり
- ・ともに伸びる学校づくり
- ・家庭や地域から愛される学校づくり

【目指す学校像】

- ・確かな学力を育む学校
- ・豊かな心を育む学校
- ・健康な身体を育み安全な学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

全職員が信頼と和を基盤とした協働体制のもと、教育目標や学校のあるべき姿の具現化を目指し、次の5つの方針をもとに学校経営にあたる。

- (1) すべての児童の人権を大切にし、児童が教育活動の中で自分のよさや個性を発揮し自己肯定感や自己有用感を感じることができる学校づくりに努める。
- (2) 小中9年間を見通した確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の確実な定着と「楽しく・わかる・できる」授業づくりに努める。
- (3) 自他の生命を尊重し、児童一人一人が生き生きと安心して学校生活を送る中で、児童が自ら健康や体力等の増進に取り組む学校づくりに努める。
- (4) 学校課題研修や教師の自己研鑽に基づいた校内研修を充実させ、教職員個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、一人一人の能力や特性を生かしながら、児童とともに伸びる学校づくりに努める。
- (5) 学校・家庭・地域社会が一体となり教育活動の充実を図るとともに、積極的に情報を発信する開かれた学校づくりに努める。

陽南地域学校園教育ビジョン

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育
～子どもの自主的な活動を通して～

4 今年度の重点目標（短期的視点）

（学校運営）

- ・学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、協働して取り組む体制づくりを進める。
- ・学校と家庭・地域の双方向的な関係を築き、学校内外の教育的資源の有効活用を図る。

（児童生徒指導）

- ・基本的生活習慣を身に付け、時と場に応じて適切に判断し、自主的に行動できる児童を育成する。

（健康・体力）

- ・自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成を図る。
～自分の力に合っためあてをもち、主体的に運動する児童・自分の体に関心をもち、自ら健康で安全な生活ができる児童をめざして～

（学習指導）

- ・「だれもが『楽しく・わかる・できる』授業の創造～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた国語科授業づくり～」の研究に協働して取り組む。
- 基本的な学習習慣の定着と個に応じた指導の充実を図る。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 「自分は、今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 「学校全体に活気があり明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 児童一人一人が所属感と安定感をもった居がいのある学級作りに向けて、Q-U検査やアンケート・日常の交友関係の観察により、児童の実態を把握し、問題があるときはすぐに対策を講じる。学年間の連携も図る。 ② いじめの早期発見のため、「学校をよりよくするアンケート」を6月・10月・2月に実施し、実態を把握することで、児童が明るい気持ちで生活できるようにしていく。 ③ いじめ・不登校の早期発見・早期対応・解決に向けて、児童指導委員会学年会・ブロック会で情報交換し、教育相談を6～7月と12月に実施する。また、学校の取組だけで改善することが困難な家庭環境が背景にあると思われる不登校については、関係機関（市教育センター・民生委員・主任児童委員・児童相談所・市役所子ども課）と連携をするとともに、各担当からも働きかけを行うようにして、改善を図る。 ④ 日常の指導で問題が起きたときは、児童指導主任・安全主任・学年主任等と連携を図って直ちに対策を話し合い、対応策を学年に持ち帰って各クラスで指導をするなどし、素早い対応に努める。また、職員会議の折に児童指導委員会を開き、各学年の児童の様子を伝え合い、全教職員が共通理解のもと、児童育成に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.7% 保護者の肯定的回答率 93.8% ・日常の指導の中で各種のアンケートを実施したり、問題発生時に早期対応を図ったりし、児童が安心して居がいをもって明るく学校生活を送れたため、児童・保護者ともに肯定的回答率が、指標を10%以上、上回った。 【次年度への方針】 ・今年度に引き続き、児童一人一人の様子に目を配り、些細な変化を見逃さない姿勢を教師が保つと共に、問題発生時には、学校全体で連携を図り、早期発見・早期支援に努める。全体での情報交換も引き続き行う。

A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 「先生方は大切なことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 「教職員は、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 学校教育目標具現化に向けた学校経営のもと、一人一人を大切にし、児童のよさを認め伸ばす学級経営に努める。 ② 児童の理解度をもとに、具体物の操作や教材教具の工夫や算数の習熟度別学習を取り入れることにより、「分かる授業」を展開し、基礎・基本の確実な定着を図る。 ③ 教師自身の授業力向上に向けて、一人一授業を実践し、常に学び合う場を設定する。 ④ 授業参観後の懇談会や学年便り等で、学校で指導していること、家庭で指導することを伝え理解・協力を得る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.4% 保護者の肯定的回答率 90.4% ・具体物を操作させたり教材教具の工夫、算数の習熟度別学習をしたりなどの効果で、児童の肯定的回答率は指標を16.4%上回った。 ・授業参観後の懇談会や学年だより等で、学校で指導していること、家庭で指導することを伝えることで保護者の指標も10.4ポイント上回った。 【次年度への方針】 ・引き続き「分かる授業」の展開を心掛け、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、学年便り等で指導内容を保護者に伝え、家庭とも協力し、家庭学習の定着を進める。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり、安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 「児童（生徒）は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上	① 学校の決まり「陽南のよい子」に従って、全教職員の共通理解のもと常時指導を継続し児童にきまりやマナーが身に付くようにする。 ② 「陽南授業・生活のきまり」をもとに、児童に自分の生活を振り返らせ、規範意識を高め、判断力・実践力の育成を図る。（振り返りは学年に応じて、年3回実施） ③ 生活目標を朝の会等で唱和させて意識化を図るとともに、あいさつ、姿勢、言葉遣い、返事などの目標を焦点化し、スモールステップによる定着化を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 79.6% 教職員の肯定的回答率 100% ・教職員の共通理解が深まり、「ようなん授業・生活のきまり」が浸透した結果、児童が落ち着いて生活できるようになったため、教職員の肯定的回答率が指標を上回った。一方、児童の肯定的回答率が昨年度を5.4%下回った。児童全体の規範意識の高まりにより、多くの児童が自分自身を厳しく振り返ることができるようになったことによるものと考えられる。 【次年度への方針】 ・今後も目標を具体化、焦点化し児童に意識させると共に教師が、児童のあいさつや姿勢についてよく見ることにより、具体的に賞賛する。

A4 教職員は分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① 十分な教材研究のもと、本時の学習目標を明確にするとともに、児童の理解度に合わせた作業用紙やヒントカード・ヒントコーナー・教材教具を準備し分かる授業に努める。 ② 授業の中で児童の意見を取り上げ、認め励ますなどして生かすことで、自信をもって自分の考えを表現したり伝え合ったりすることができる児童の育成を図る。 ③ 少人数担当との連携を図った学年習熟度別学習や学級内習熟度別学習・コース別学習を行ったり、単元によって学習体制を替えたりするなど、学習形態や場の設定を工夫し、効果的な学習の進め方を追究することにより、児童の理解が深められるようにし学力向上を図る。 ④ 計画的な板書を心がけ、児童が課題の確認や共有、焦点化が図れるようにするとともに学習内容の振り返りの場面で活用できるよう構造的な板書を工夫し、授業力の向上に努める。 ⑤ 会話科の学習を計画的に実施し伝え合う力の育成を図る。また「聞き方・話し方のきまり」の掲示物により意識づけを行う。 ⑥ 週1回、朝の学習に算数における数と計算の学習を系統的に行うパワーアップタイムを設け、基礎基本の定着を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.1% 保護者の肯定的回答率 79.8% ・昨年度同様、児童の理解度に応じた指導や児童同士の学び合いに取り組んできたことで、児童の肯定的回答率が高く、指標を15.1%上回った。 ・さらに、今年度は授業の「めあて」を明確にし、授業後の「振り返り」において、学んだことを整理・確認させることに努めたため、昨年度を上回った。 ・一方、保護者の肯定的回答率は、昨年度を5.3%下回った。 【次年度の方針】 ・今後も、校内授業研究会等を通して、教師同士が互いに授業を見合い、学び合う研修を継続し、分かる授業の指導の研究に努める。 ・授業では児童のつまずきの具体例を取り上げ丁寧に指導するとともに、保護者にも学年便り等を通して、学校の取組や児童の現状や変容を伝える機会を増やす。
A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 人権週間、「いじめゼロ・にっこり集会」等を通して、互いを思いやることの大切さを理解し自分たちの生活をよりよいものにしていくという意欲を高める。 ② 教育相談やアンケート調査を通して、「いじめ」や「いじめにつながる行動」の早期発見に努めるとともに、いじめが疑われる事案が把握された場合は、いじめ防止対策委員会を開催し関係教職員が組織的に連携し、家庭の協力も得ながら解決していく。 ③ 「学校をよりよくするアンケート」を6月・10月・2月に実施し、いじめを抑止するとともに把握した実態を懇談会や学年便り等で保護者に周知し家庭の理解を得ながら、児童にいじめが許されない行為であるという意識を定着させる。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.8% 保護者の肯定的回答率 68.0% ・いじめゼロ集会やいじめゼロ宣言などの活動を通し、児童の人権的意識が高まり、指標を16.8%上回った。その一方で、保護者の肯定的回答率が68.0%と昨年から3%下がるとともに、指標を12%下回った。 【次年度の方針】 A ・人権週間での取組やいじめゼロ集会での様子、教育相談を行った後、どんな対応をしたのかなど、教育活動の様子を学年便りで、必ず発信する。 ・週1回行っている校内児童情報交換会や、特別支援委員会などは、引き続き継続して行う。 ・日常的にいじめの早期発見に努めるとともに保護者や児童からの相談に真摯に向き合い、迅速な対応を組織的に行う。

	A6 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答率 80以上	① ゆとりと充実感のある学校生活を目指し、行事の精選をする。 ② 学校行事や児童会活動に、児童が主体的に活動する場面を多く取り入れ、児童の主体性や企画・運営力を育てる。 ③ 宇都宮市小中一貫教育の方針に従って、適切な時数を確保し、夏季休業中2日、土曜授業1日を含めて、知・徳・体の調和のとれた教育課程の編成・実施に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100% 児童の肯定的回答率 90.8% ・行事の精選をしながらも、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などにおいて、児童の主体的な活動を推進しているため、教職員や児童の肯定的回答率が指標を10～20%上回った。 【次年度への方針】 ・行事の精選と適切な時数確保をしながらも児童の主体的な活動となるように努める。
学校運営の状況	A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。〔全〕 【数値指標】 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 ⇒地域の肯定的回答率 80% 以上	① 月1回配布の学校便り（地域にも回覧）・学年便り・保健便り・図書館便り・給食便りや学校ホームページ等を通して、保護者や地域住民に学校の具体的な取り組みを積極的に発信し、学校教育への理解が深まるようにする。 ② 年度当初に「学校経営方針」を保護者に配布し、全保護者に周知するとともに、オープンスクールや学校行事の公開により開かれた学校づくりの推進に努める。 ③ PTA運営委員会における学校経営方針の説明や学級懇談における学級経営方針の説明などにより保護者が学校教育への理解が深められるようにするとともに家庭の協力を求めている。 ④ 出前講座・音楽集会・児童集会等の教育活動を今まで以上に保護者に積極的に公開し、学校教育の現状を見ていただくことにより、本校の教育活動への理解を深めるようにする。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 97.6% 地域の肯定的回答率 100% ・各種の便りや、ホームページに学校行事の様子をアップしていること等により、学校教育への理解が深められたため、保護者・地域の肯定的回答率が高く、指標をそれぞれ17.6%、20.0%上回った。 【次年度への方針】 ・開かれた学校づくりを目指し、学校公開やホームページのアップ等、積極的な情報発信を引き続き行う。
	A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。〔全〕 【数値指標】 「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 ⇒地域の肯定的回答率 80%以上	① PTAによる水曜日下校時の立哨・みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊等に協力を依頼するとともに、教職員が交代で下校パトロールを実施し、登下校時における児童の安全確保に努める。 ② 地域協議会の組織を有効活用し、学校支援コーディネーターを中心に、学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深めるとともに児童の教育・安全の充実を図る。 ③ 「人とのふれ合い活動」を積極的に推進し、地域の教育的資源（地区市民センター・独居老人・幼稚園・保育園）を活用して、コミュニケーション能力の育成や相手を思いやる心・助ける心の育成に努める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 93.2% 地域の肯定的回答率 100% ・PTAによる下校時の立哨、みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊などを実施し、児童の安全確保に努めた。また、「まっぼっくり」「CBA」の読み聞かせ等以前からの活動の他に、昨年度より「研究授業時の自習見守りボランティア」を地域協議会にお願いしたり、地域の教育的資源の活用として「水泳指導ボランティア」をお願いしたりした。そのため保護者・地域の肯定的回答率が高く、指標をそれぞれ13.2%、20.0%上回った。 【次年度への方針】 ・引き続き学校・家庭・地域が連携した教育活動を行っていく。

教育活動の状況	生 活	A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 〔全〕 【数値指標】 「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 校内掲示の決まりに合わせて、室内は整然と整えられ、清潔感あふれ落ち着いた温かい雰囲気の中で、学習に集中できるように努める。 ② 縦割り班編成後、清掃場所に適切な数の班を割り当てる。毎日の清掃時には教職員も一緒に清掃し、その場でも発達段階に応じた具体的指導を行う。また清掃マニュアルを見直したり、清掃ボランティアの協力を得ながら児童が清掃の方法を学ぶ場を設定したりすることにより、児童の清掃スキルの向上を促す。 ③ 毎月の施設・設備の安全点検により、修繕・補修を迅速に行い、安全安心な学習環境を整える。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.5% 教職員の肯定的回答率 91.2% ・校内掲示が計画的になされている。さらに、今年度も清掃ボランティアの協力を得ながらきめ細やかな清掃指導を行ってきたので、児童・教職員ともに肯定的回答率は、指標を10%程度上回っている。 【次年度の方針】 ・清掃の方法について、しっかり手引きに沿って指導していく。 ・施設整備については、市に修繕依頼などの要望を継続的に行う。
		A10 児童は進んであいさつをしている。 〔全〕 【数値指標】 「児童（生徒）は、あいさつをしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 全職員が率先してあいさつし、学級輪番制によるあいさつ運動を通年実施し、児童会と協力しながら元気なあいさつの意識化を図るとともに習慣化を図る。 ② あいさつについて児童の意識化図るため「あいさつをする意味」に言及し、学級指導や授業などで継続的に指導する。また、意欲向上のために、「あいさつ表彰」を実施する。さらに家庭での指導も学年だより等で呼びかけていく。 ③ 高学年児童が下級生の模範となれるよう指導の手立てを工夫し、児童同士のあいさつへの意識を高める。 ④ 家庭や地域学校園、地域協議会と連携して、あいさつ運動を推進する。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 69.7% 教職員の肯定的回答率 91.2% ・教職員の肯定的回答率は、昨年度より9.4%上がり、また指標より11.2%高い。保護者の肯定的回答率は、昨年度より8%上がったが、指標より10.3%低い。校内でのあいさつは良くなっているが、個人差が大きく、校外でのあいさつはまだ不十分である。 【次年度の方針】 ・教職員が率先してあいさつをする取組は継続して行っていく。 ・発達段階に応じて、学級活動や道徳の時間を使ってあいさつの意味を理解させ、児童の意識化を図る。 ・家庭や地域学校園、地域協議会と連携して、あいさつ運動を推進していく。
		A11 児童（生徒）は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 「児童（生徒）は正しい言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 生活目標で時と場に応じた「言葉づかい」について取り上げ、身に付くまで時間をかけて指導していく ② 「ことばの時間」の活動を通して自分の意思を表現する能力を高めるとともにコミュニケーション能力の素地を養う。 ③ 道徳や学級活動の時間を活用して、相手の気持ちを考えた言葉づかいや話し方を段階的に指導することにより正しい言葉づかいの定着化を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 76.8% 教職員の肯定的回答率 79.4% ・児童の肯定的回答率は、昨年度より8%下がり、さらに指標より3.2%低い。教職員の肯定的回答率は、昨年度より8.5%下がり、指標より0.6%低い。 【次年度の方針】 ・言語環境を整える掲示物を作成し、児童の意識化を図っていく。 ・「ことばの時間」や学級活動、道徳の時間を活用して、時と場に応じた言葉づかいについて、継続して指導していく。

健康・体力	A12 児童（生徒）は、進んで運動する習慣を身に付けている。（全） 【数値指標】 「児童は、休み時間や放課後などに、進んで運動している。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 「うつのみや元気っ子チャレンジ」を奨励するとともに教科体育において効果的な補助運動を取り入れるなどし、「ミニマム」達成を通した児童の体力向上を図る。 ② 休み時間における屋外遊びを奨励するとともに、児童会主催のスポーツ大会等と呼びかけ、楽しく運動する場を設ける（11月～12月）などし、運動習慣の定着化を図る。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率 85.1% 教職員の肯定的回答率 85.3% ・児童、教職員の肯定的回答率は指標をそれぞれ 5.1%, 5.3%上回った。 ・一方、保護者の肯定的回答率が 59.8%と昨年度を 20 パーセント以上下回り、多くの保護者が学校や家庭における児童の運動量の確保について十分とはいえないと感じていることが分かる。 【次年度の方針】 ・学校の休み時間における運動への取り組みについて、体育主任を中心として積極的に保護者へ向けて発信していく。 ・来年度は、月毎にチャレンジ種目を設定することで業間や昼休みにおける児童の運動意欲の促進を図りたい。 ・今年度は長縄大会に意欲的に取り組む児童が多く見られ、大会後も取り組み続ける児童が多かった。来年度も児童主体による運動イベントを企画し、児童の運動意欲の向上を図るとともに運動習慣の定着化を図る。
-------	---	---	--

	A13 児童(生徒)は栄養のバランスを考えて食事をしている。 〔全〕 【数値指標】 「自分は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	① オープンスクール等での朝食摂取啓発ビデオ視聴また地域学校園で作成した「食育ファイル」を通して、食の大切さを啓発していく。学級活動や家庭科の授業において、栄養教諭による食育指導の時間を設けるなど、直接的な指導を行う。 ② 学年便りや各学級の食育コーナーを活用して学校共通の記事を掲載することにより、食事のマナーや栄養素についての意識を高めるとともに、地域学校園で「お弁当の日」を同日開催したり、アンケートにより家庭の食への意識を把握したりしながら、食に対する意識向上を図る。 ③ 給食指導を通して変容した児童の様子を家庭訪問や個人懇談、学級懇談会等において、保護者に伝え、家庭との連携を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 72.3% ・児童の肯定的回答率が昨年度より5.7%下回っているものの、給食週間等の振り返りからは、苦手な食べ物も少しずつ食べようとする意識が高まっていることがうかがえ、継続的な給食指導の成果と考えられる。特に保護者の肯定的回答率は、昨年度を2.3%上回っていることから、食育ファイルやお弁当の日の取組の成果が表れていることが分かる。一方、食に問題が見られる児童も見られ、家庭と連携して個別に支援していくことが求められる。 【次年度の方針】 ・栄養教諭が5,6年生の家庭科や下学年の学級活動において、積極的に授業に関ったことで、児童指導や食育指導に効果が認められたことを踏まえ、次年度も継続していく。 ・給食便りや食育ファイル、お弁当の日の振り返りカードなど、家庭への啓発や意識向上に効果が認められた活動を今後も継続する。 ・食に問題のある児童について、個人懇談や教育相談の機会を利用して、保護者や児童と栄養教諭が面談し意識向上を図るなど家庭との連携を十分に行う。
	B1 安全に行動できる資質や能力を育成するために、関係機関と連携して様々な取り組みを実施する。 【数値指標】 「自分は、安全や保健の学習で、安全に行動すること健康に害のあること・やってはいけないことが分かって、正しいことをやろうと思う。」 ⇒児童の肯定的回答率 90% ⇒保護者の肯定的回答率 80%	① 安全に行動できる資質や能力を育成するために、より具体的・実践的な取り組みをしていく。特に自転車の乗り方に関しては繰り返し指導する。 ○各学年で実施（警察と交通安全教） ・警察スクールサポーターと防犯教室（1年） ・防犯会社と非行防止教室（3年） ・自転車免許講習（4年） ・防犯教室（警備会社）（5年） ・学校薬剤師と喫煙防止教育（5年） ・携帯電話についての講座（6年） ・警察と薬物乱用防止教室（6年） ○全校で実施 ・警察スクールサポーターと不審者対応避難訓練 ・消防署と地震対応避難訓練 ・交通安全教室（県・くらし安心安全課）	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.7% 保護者の肯定的回答率 91.2% ・児童及び保護者の肯定的回答率が指標を上回り、4回にわたる全校での避難訓練と各学年での発達段階に応じた学級指導が効果的に行われていることが分かる。 ・さらに、教職員の肯定的回答率も90%を越え、今年度の取組が充実していたことが分かる。 【次年度の方針】 ・実生活の具体的重点目標として、ヘルメットを着用した自転車乗車や、道路の正しい横断や歩行のあり方等についての指導を徹底したい。

学 習	A14 児童（生徒）は進んで学習に取り組んでいる。〔全〕 【数値指標】 「児童（生徒）は、進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 「だれもが楽しく、分かる授業」の展開に努め、「できる」喜びを味わわせることで、学ぶ意欲を喚起し、自ら学習に向かっていける児童の育成を図る。 ② グループ討論などの話し合いの場を意図的に設定し、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、授業や活動後に振り返りの時間を設け、自分の頑張りや友達のよさを伝え合うことで、自己肯定感を高めたり友達のよさに気付いたりできるようにする。 ③ 学校生活の様々な場面・時間で、その都度、話し方・敬語の使い方などを指導し、聞き手を意識した話し方ができるよう指導していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.4% 教職員の肯定的回答率 90.9% ・学力向上プロジェクトや国語の研究等を進め、その中で学び合いの場面を意識して取り入れたことにより、児童、教職員共に、肯定的回答率は90%を超え、数値指標を10%以上回っている。特に、教職員の肯定的回答率は、昨年度より3%上回っている。 【次年度の方針】 ・引き続き、授業で話し合いの場を多く取り入れ、コミュニケーション能力を高めて行きたい。保護者の肯定的回答率が、81.3%と昨年より4.8%下回ったので、学校での学習の取組を便りなどで、進んで発信していきたい。
	A15 児童（生徒）は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指数】 「児童（生徒）は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① ポイントを明確にした「ようなん授業・生活のきまり」をもとに、落ち着いて学習する習慣を形成する。 ・授業の始まり・終わりのあいさつ ・良い姿勢 ・話の聞き方 ・片付けと次の準備 ② 話の聞き方を掲示し常時指導しながら、基本的学習習慣の定着を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 84.8% 教職員の肯定的回答率 100% ・児童・教職員共に、肯定的回答率は数値指標を上回っており、特に教職員の回答は100%と高い割合である。「ようなん授業・生活のきまり」を月ごとに反省させ、クラスの中で意識づけしたことがよかったと思われる。 【次年度の方針】 ・引き続き「ようなん授業・生活のきまり」の徹底を図り基本的生活習慣・学習習慣を身に付けさせていきたい。 ・聞き方のポイントと共に、人に伝わる話し方の指導も行いたい。

	B2 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】 「自分は家庭学習の習慣が身につけている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	① 低中高の実態に合わせて作成した「家庭学習のしおり」と「家庭学習ヒント集」を活用して常時指導し、基本的な学習に対する姿勢を育てる。また、課題の内容を工夫し、個に応じた取り組みができるよう支援する。しおりの配布時や授業参観後の懇談会において説明の機会を作り、より浸透させていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 81.4% 保護者の肯定的回答率 73.8% ・児童の肯定的回答率は、数値指標をやや上回ったものの、昨年度より、4.8%下回っている。また、保護者の肯定的回答率は、数値指標より、6.2%下回っているが、昨年の肯定的回答率を1.6%上回った。 【次年度の方針】 ・保護者への啓発は少しずつできているので、引き続き、「家庭学習のしおり」の配付や懇談会での話により家庭学習の大切さを伝えたい。宿題の出し方にもクラス差があるので、それぞれのクラスで学年のめあての学習時間に見合うような宿題を出せるように工夫していく。
本校の特色・課題等	B3 「本とのふれ合い」を積極的に推進し、読書の楽しさを味わわせ、豊かな感性と逞しく生きる力を培う。 【数値指標】 「自分は本を読むことや図鑑などを見ることが好きで、読書をする習慣が身につけている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 多くの本との出会いと読書の楽しさを味わわせるために、週2回の読書の時間を日課表に位置づけ、月2回ボランティアによる読み聞かせを実施していく。 ② 多読賞表彰や図書コーナーの充実（図書館便り、児童の読書の記録、おすすめの本の紹介などの掲示）により本に親しむ環境作りに努め、児童の読書意欲の向上を図る。 ③ 全教科の調べ学習に対応できるよう、必要とされる時期に必要な本の整備に努める。 ④ 読書の習慣化を促すため、「家読」を家庭に呼びかける。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 78.0% 教職員の肯定的回答率 91.2% ・ボランティアによる月2回の読み聞かせの実施や必読図書カードの活用、週2回の読書タイムを設けることで、教職員の肯定的回答率は数値指標を上回った。一方、児童及び保護者の肯定的回答率は昨年をそれぞれ2.0%、4.9%下回った。図書館の利用状況からは、読書の習慣化に学年差や個人差が認められる。 【次年度の方針】 ・読書への意欲が高まるよう、次年度も今年度の取組を継続していく。 ・図書だよりや学年だより等で、家読を推奨したり家読カードの工夫を図ったりし、読書の習慣化について保護者に協力を求めるとともに、学級懇談会や個人懇談などの機会を利用して読書により培われる能力や感性について保護者に説明し家読の推進を図る。 ・図書だよりでおすすめの本を紹介したり、読書週間（本の福袋やビンゴの実施、教職員による読み聞かせ）や読書集会の実施をしたりし、児童の読書への関心を高め、読書意欲の向上につなげていく。 ・南図書館との連携により、児童の学習内容に沿った図書を整備し、充実した調べ学習ができるよう授業支援に努める。 ・教職員の読書指導への共通理解を十分に行い、学年差や個人差にも対応して読書の習慣化を図れるように努める。

B4「人とのふれ合い」の推進により、相手を思いやる心や助け合う心を養う。 【数値指標】 「縦割り班活動では、他の学年の人とも協力しながら楽しく活動することができた。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 縦割り班を主体とした活動（年2回の子ども集会・ふれあい給食・清掃班活動）を設定し、異学年交流の中でコミュニケーション能力を育成したり、思いやりの心や助け合う心を養ったりする。 ② 登校時のふれあい、地域の方とのふれあい、高齢者との交流、学校支援ボランティア感謝の会等様々な場面における交流活動の中で、児童一人一人のコミュニケーション能力の育成を図っていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.4% 教職員の肯定的回答率 97.1% ・ふれあい給食や縦割り班遊び、子ども集会などの集会活動などで、異学年交流を進めてきたことで、思いやりの心や協力性が見られ、人間関係が深まってきたため、児童の肯定的回答率が高く、指標を7.4%上回った。 ・地域の方や学校支援ボランティアの方と交流する機会を多く設けたことで、一人一人が感謝の気持ちを表すことができたため、地域の肯定的回答率は87.5%、保護者の肯定的回答率は90.5%と高かった。 【年度の方針】 ・次年度も引き続き今年度の取組を継続し、縦割り班活動を充実し、思いやりのある心や助け合う心を更に養っていきたい。
---	--	---

〔総合的な評価〕

○総合的にみると、学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色・課題等の多くの事項について概ね数値目標を達成することができた。

○本年度の学校教育の重点目標である「教職員の協働体制による学校教育推進」（A2・A4）「学校内外における教育的資源の有効活用」（A8）「基本的生活習慣を身に付け、時と場に応じて適切に判断し、自主的に行動できる児童の育成」（A3・A10・A11・B1）「自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成」（A12）「基本的な学習習慣の定着と個に応じた指導の充実」（A14・A15・A4）などへの具体的な取組については、多くの項目において肯定的回答率の割合が指標に達している。

○「学校全体に活気があり明るくいきいきとした雰囲気である」（A1）「教職員は協力し、児童のよいところを認め教えるべきことをしっかりと熱心に指導している」（A2）「学校の日課・授業・行事などの教育課程は適切に実施されている」（A6）「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」（A7）「学校は家庭・地域・企業等が連携協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」（A8）などの全体アンケートの教職員、保護者、地域住民の肯定的回答率が、90%を上回り、学校の取組が保護者や地域住民に理解されていることが分かる。また、（A1・A2・A4・A5・A6）への児童の肯定的回答率が90%を超え、多くの児童が学校生活に満足していることが伺える。

●肯定的回答率が数値指標に達していない項目もあり、次年度への課題を残している。

肯定的回答率が指標80%を下回ったアンケート項目は、以下の通りである。

（↑↓は昨年度と比較して上がり下がりした数値をパーセンテージで表した。）

【児童】

- ・A10児童は時と場に応じた言葉づかいをしている（76.8%）↓8%
- ・A13児童は好き嫌いなく給食を食べている。（72.3%）↓5.7%
- ・B3 児童は学校や家で本を読んだり図鑑などを見たりし、読書に親しんでいる。（78.0%）↓2%

【保護者】

- ・A4 教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。（79.8%）↓5.3%
- ・A5 学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。（68.0%）↓3%
- ・A10児童は、時と場に応じたあいさつをしている。（69.7%）↑8%
- ・A11児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。（67.4%）↑2.4%
- ・A12児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している。（59.8%）↓20.7%
- ・A13児童は、好き嫌いなく給食を食べている（69.0%）↑2.3%

- ・ B2 児童は、宿題や自主学習など、家庭学習の習慣が身に付いている。(73.8%) ↑1.6%
 - ・ B3 児童は、学校や家で本を読んだり図鑑などを見たりし、読書に親しんでいる。(66.2%) ↓4.9%
- 【地域】
- ・ A11 児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。(60.0%) ↓40.0%
 - ・ A13 児童は、好き嫌いなく給食を食べている (77.8%) ↓22.2%
 - ・ A14 児童は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど積極的に学習している。(75.0%) ↓25.0%
- 【教職員】
- ・ A11 児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。(79.4%) ↓8.5%
 - ・ A13 児童は、好き嫌いなく給食を食べている (64.7%) ↓11.1%

6 学校関係者評価

○学校運営の状況においては全ての項目について、十分に数値目標を達成することができたものの、教育活動の状況においては児童の言葉づかいや給食を好き嫌いなく食べる、授業中における学習意欲（話し合い・発表）などの項目について肯定的割合が前年度を大きく下回った。これらの結果については、回答実数が昨年度より減少したため肯定的割合の増減の幅が大きくなったことも影響していると考えられる。

○アンケートへの自由記述や学校評価についての話し合いにおいては、以下のような意見が述べられている。

- ・ アンケートへの回答は、個人の感じたことや思ったことにとどまり、全体を把握したうえで回答した場合と違いがあると思われる。
- ・ 登下校や清掃への取組の様子からは、上級生が下級生の面倒をよく見て、みんなで楽しく活動していることが分かる。
- ・ 学習支援や学校環境整備などの学校支援ボランティア活動により子どもたちの学習環境が充実している。
- ・ 児童の様々な問題に学校が組織的に取り組んでいる姿勢が感じられる。

○今後も本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色などについて積極的に公表し、保護者や地域の理解が深まるように努める。また、地域や保護者からの声を学校運営に反映し、改善を図り、家庭・地域と連携した教育活動の充実に努める。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

○今後も、本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色などについて積極的に公表しながら、開かれた学校づくりに努め、今年度の取組を継続・発展させながら、学校と保護者、地域が協力・連携を図り、地域に信頼される学校づくりを推進する。

◇次年度に向けての方向性

「安心と楽しさのある学校づくり」「ともに伸びる学校づくり」「家庭や地域から愛される学校づくり」の理念を継続し、以下の学校像を目指して全職員が学校経営に参加しながら取り組んでいく。

《確かな学力を育む学校》

- 教師の授業力の向上 ----- 校内研修の充実、分かるできる授業の研究・実践
- 基本的学習習慣の定着----- 「ようなん授業・生活のきまり」の徹底
- 家庭学習の習慣化 ----- 家庭学習のしおりを活用した家庭との連携強化

《豊かな心を育む学校》

- 人権意識の向上 ----- 人権週間・いじめゼロ集会の工夫、教育相談の充実、道徳教育の充実
教職員によるいじめの早期発見・迅速な組織的対応
- 基本的生活習慣の定着 ----- 「ようなん授業・生活のきまり」の徹底
- あいさつの定着 ----- 家庭・地域と連携したあいさつ運動の推進、教師の率先垂範、
- 場に応じた言葉づかいの定着 ----- 学級活動及び道徳教育の充実、言語環境の充実、ことばの時間の充実
- 読書習慣の定着 ----- 読書指導の充実（読書週間・読書集会）、読み聞かせの継続、市図書館との連携
読み聞かせの継続（ボランティア・教師）、家庭の協力を得た家読の推進

《健康な身体を育み安全な学校》

- 運動習慣の定着 ----- 運動意欲の向上を図る工夫（業間・休み時間の運動促進、チャレンジ種目の設定、児童主体の運動イベントの企画・実践）
- 好ましい食習慣の定着 ----- 食育指導の推進及び家庭との連携（給食便り・食育ファイル、お弁当の日振り返りカードの活用）、栄養教諭による個別面談の充実
- 安全に行動できる能力育成----- 警察や消防署、学校薬剤師と連携した授業の充実（避難訓練・交通安全教室
防犯教室・薬物乱用防止教室・喫煙防止教育・非行防止教室・自転車免許講習
SNS や携帯電話についての講座など）

